



大雨が降る中、皆さん雨がっぱを着こんで山頂を目指しました

雨にも負けず頑張りました (田尻)

10月7日、加護坊温泉さくらの湯から加護坊山山頂までの約11キロメートルを歩き、秋の田尻地域の自然を満喫しながら、さわやかな汗を流そうと「加護坊エンジョイウォーキング」が開催されました。当初の参加予定者は200人を超えていましたが、当日はあいにくの大雨。それでも30人の参加者がウォーキングに参加し、雨にも負けず山頂を目指しました。ウォーキング終了後、さくらの湯で待機していた他の参加者と一緒に、田尻産のおいしいお米で作ったおにぎりとおたかといん汁を味わいました。



ギターとマンドリンによる童謡などの演奏と懐かしい品々に囲まれて、来場者はゆったりのコンサートタイム

和を楽しみながらリサイクル (三本木)

10月14日・15日の2日間、着なくなった和服などを衣類や小物などに作り直して、リサイクルを推進している三本木の手芸愛好サークル「寺子屋」が、三本木公民館を会場に「蚕・懐古展Ⅴ」を開催しました。「子ども」をテーマに、和服などを再利用して作った洋服、バッグやアクセサリーなどのほか、昔の子どもの着物や帯、「こどもの日」に立てた大きなのぼり旗など、約300点が展示されました。また、ギターとマンドリンによる童謡や唱歌の演奏がノスタルジックな雰囲気を醸し出していました。

9月26日、松山地域の下伊場野小学校の4年生から6年生までの児童21人による鼓笛隊が、秋の全国交通安全運動に合わせて、三本木地域との境から下志引公会堂までの約2キロメートルの道のりをパレードし、地域住民の皆さんに元気いっぱい交通安全を呼び掛けました。

一度も休むことなく、立派にパレードした子どもたち。この子どもたちの願いに応えられるよう、普段から交通マナーを守り、ゆずり合いの精神で、交通事故のない大崎を目指していきましょう。

交通安全ゼロを願い元気にパレード (松山)



交通事故ゼロがぼくたちの願いです

地域の資源を生かし、市のまちづくりに積極的に参画していこうと、昨年、旧岩出山町で開催された「郷学塾」。その時の塾生が中心となり、「第Ⅱ期郷学塾」が10月14日にスタートしました。来年1月まで4回にわたり行われる予定で、第1回のテーマは「地域に学ぶ」。内川・学問の道沿いに町内を散策後、有備館を会場に、有備館の今日までの歩みを学び、その後は尺八と琴のコンサートに耳を傾けました。有備館の風情と和楽器の音色が調和した心安らぐひと時を過ごし、岩出山の良さを再認識していました。

積極的にまちづくりに参加しよう (岩出山)



和楽器の音色に聞き入る塾生の皆さん

第149回東北市長会総会



開催市の市長として、伊藤市長が議長を務めました

山積する諸課題に東北が連携して (古川)

10月18日、「第149回東北市長会総会」が古川の芙蓉閣で行われ、東北6県から74市長が一堂に会しました。同会は、毎年春と秋の2回開催され、各種情報交換や国への要望活動などを行っており、今回の開催は、ぜひ、新生大崎市にと招致し開催したものです。

特別決議として、「道路特定財源の一般財源化反対」など2議案と、その他30の議案が採択され、国などに要望されることとなります。また、吉野作造記念館や祥雲閣も視察していただき、大崎市を広くPRする機会ともなりました。



岩出山の旧有備館で皆さんと一緒にパチリ

観光ガイドも務め評価も上々 (鹿島台)

鹿島台商業高等学校の生徒たちが企画した大崎市を巡る旅が、旅行会社JTBによって商品化され、10月1日・2日の2日間、「見て・来て・触れて・感じて・グリーンツーリズム まるごと大崎体験と名湯・鳴子温泉2日間」と銘打ち、限定1回のバスツアーとして実施されました。

この旅行の企画立案は、仙塩地区から通う生徒が多いことから、自分たちが通う学校周辺を知り、新しくスタートした大崎市を多くの人に発信していくためのシティセールスの手法と実践を学ぶものとして、同校2年生の授業の一環として行われました。

大崎市の豊かな自然、歴史、文化、食、産業といった魅力を知ってもらうためには、実際に見て、聞いて、触れて、感じてもらうのが一番と、市内を巡る旅に着目し、物質的な豊かさではなく、心の豊かさを実感していただく内容を目指しました。

当日は、23人のお客さんと一緒に、生徒たちもバスに同乗。しっかりと調べて作ったオリジナルの旅のしおりを配付し、市内各地を巡りながらバスガイドも務めました。

初日は、三本木の「道の駅やまなみ」に立ち寄り、岩出山の「凧菜・上の家」で昼食、鳴子温泉の「かんけつ泉」や「こけし資料館」を見学し、鳴子温泉に一泊して温泉もたっぷり堪能していただきました。2日目は、鳴子温泉の「湯沼」や岩出山の「あ・ら・伊達な道の駅」、「旧有備館」を見学、古川の「食の蔵 醸室」で昼食をとり、田尻の「手づくりハム・ソーセージ」を試食するなど、2日間にわたり、たっぷり大崎市を満喫していただきました。

参加者からは「ゆったりと各地を巡って、懐かしさやいやしを感じた。食事もとてもおいしかった」と上々の評価。生徒たちも「はじめは不安でいっぱいでしたが、お客さんとのふれあいがとてもうれしい。また機会があれば、ぜひやってみたい」と話してくれました。



初めてのこけしの絵付けに真剣な表情

こけしの絵付けにもチャレンジ (鳴子温泉)

旧鳴子町時代から鳴子国際交流協会が窓口となり、17年間続いているドイツのシュタインフルト郡との青少年相互交流。1年おきに受け入れと派遣を行っており、今年は10月5日から10日までの6日間、シュタインフルト郡から17人の団員を迎え入れました。滞在中は10軒の協力家庭にそれぞれホームステイしながら、大崎市(鳴子温泉地域)の文化・風土に触れ、市民との交流も行いました。

立ち寄り先の「日本こけし館」では、こけしの絵付けにもチャレンジ。心に残る思い出をたくさん作りました。